



逸枝の幼少時代の思い出の地・寄田神社の境内に「望郷子守唄の碑」がある
(市役所南東方向の寄田橋・新寄田橋を渡ってすぐ)

望郷子守唄

高群逸枝

おどま帰る帰る熊本に帰る恥も外聞もち忘れて
おどんが帰ったちゆて誰がきてくりゆか益城木原山風ばかり
風じゃござらぬ汽笛でござる汽笛なるなよ思い出す
おどんがこまかときや寄田の家で朝もはよから汽車みてた
汽車は一番汽車八代くだり乗っていきたいあの汽車に
乗っていったとて八代ザボンただの一つも買やきらん
おどま汽車よか山みてくろそ山にや木もある花もある
花のさかりは四月でござる四月八日はお釈迦さん
一生一度の釈迦院まいる晴れのゆもじで山のぼる
山でうちだすひぐれの鐘は三里四方になりひびく
三里四方はおろかなことよ花のお江戸までなりひびく

市役所界限

市役所横の明神川沿いの道を南に進み左手の寄田(よつた)橋を渡ると、目の前に新寄田橋、左手には大野川河川改修記念公園があります。

豊かな自然環境が広がるこの地は、宇城市名誉市民の高群逸枝・松田喜一お二人にゆかりの地です。全国に名をはせた明治生まれの先駆者に、ふるさと宇城市の「今」はどう映っているでしょうか。

小川町商店街界限

小川町商店街界限は、薩摩街道に沿う宿場として地域経済の中心となり、多くの豪商を輩出しました。現在も、その当時の繁栄振りが伺える建造物や古文書などが数多く残されています。

また、寺院や恵比寿なども多数点在しており、永きにわたる人々の暮らしを見守り続けています。



江戸時代末期から栄えた商家柏原邸に現存する固形紅茶



小川町商店街には、町おこし団体が文化活動をしている塩屋、商家の展示がある柏原邸など、古き良き時代の面影を残す家屋が建ち並んでいる。

イラストマップ(人権啓発課や小川支所・サテライトプラザなどで無料配布)片手に自己流で探索してもよし、有償ボランティア「まちの案内人」のガイドから学んでもよし。古くて新しい「小川」に出合えるかもしれない。

人権啓発課 ☎ 32-1111
「まちの案内人」連絡先
塩屋 ☎ 43-6191
柏原 ☎ 43-0445

宇城市 再発見 講座

よかところ編①

宇城市のよかところ・よかもんば、知っとんなはっですか？
今回は市役所界限と小川町商店街界限。現代の暮らしの中でひっそりと息づいているあんなの暮らし・ひと・もの。今再び、見つめ直してみなはらんですか？



船つなぎの楠
その昔、小川町の平坦部が海に面していたところに船をつないでいたという樹齢1300年の小川阿蘇神社の楠。加藤清正の熊本城築城の折、この楠を伐採しようとしたら、雌雄の龍が現れたという伝説があります。



武蔵塚(東福寺境内)
全国に九つあるという剣豪宮本武蔵の塚の一つです。宮本武蔵とゆかりのある人が小川にいたのではないかという説があります。



小川阿蘇神社夏祭り造り物大会

小川町に夏の訪れを告げる小川阿蘇神社夏祭り造り物大会。今年も7月15日(日)に小川町商店街で開催されます。

見どころは、各種団体が精魂込めて造り上げる“造りもん”。例年、テレビでお馴染みの顔有り、物語の名場面有り、その“素材”の良さに見入ってしまいます。

歩行者天国の商店街いっばいに繰り広げられるさまざまな露店やイベントも楽しみ。

小川町商工会 ☎ 43-0452



山都町の通潤橋が完成する2年前にできた用水施設・底井樋(そいび)をご存じでしょうか？
底井樋とは、川底を横断して松橋高校側から対岸の寄田に通水する導水路のことです。通潤橋は橋、底井樋は川底の違いはありますが、石材を用いたサイフォン形式の水路という理屈は同じです。
完成は嘉永5(1852)年、当時の庄屋・松田喜七が苦心の末に完成したと伝えられています。



大野川沿いの松橋高校南側にある大野川河川改修記念公園の一面に底井樋(左奥)と解説文のプレートがある。周辺は、市民が散歩・ウォーキングする姿を多く見かける

松橋図書館には高群逸枝・松田喜一の写真と資料が展示されている。
松橋図書館 ☎ 32-0878



祖父喜七の影響を受けた喜一は、多くの農業を志す若者を育て、農業と暮らしの中で経験に基づき生きた言葉を、数多く残しました。
―土作れ 人間作れ 作物作れ―
―自分が変われば、世界が変わる―
―理想は高く、生活は低く―
全国に単立っていった農業者によって、喜一の魂は脈々と受け継がれています。



幼い目に映る造りもんの怪獣は今にも火を吹きそう、つないだ手をぎゅうつと握りしめたあの日
ソースの香ばしい匂いの中をポケットの小銭を確かめながらそぞろ歩いた露店
ゆかた姿の同級生が
妙に大人びて見えたあの頃